

「石狩湾系ニシン」平成26年度（2014年度）漁期のまとめ

平成27年5月21日

北海道立総合研究機構中央水産試験場 資源管理部

昨秋から今冬にかけて漁獲対象となった、「石狩湾系ニシン」産卵来遊群の漁獲状況や資源状態について、漁期中の調査結果に基づき次のとおりまとめました。

1. 漁獲状況について（図1）

※2014年度漁獲量は道庁発表速報値と水試独自集計に基づく暫定値。

昨秋から4月末まで（2014年度漁期）の石狩湾系ニシンの漁獲量は1,549トン（2013年度比122%）となりました。沿岸域ではいずれの海域でも2013年度を上まわり、とくに石狩沿岸では2013年度比153%、留萌沿岸でも2009年度以来20トンを超える漁獲がありました。一方、沖底、えびこぎ、沖刺し網による沖合域での混獲については、沖底とえびこぎでは好調だったものの沖刺し網で2013年度を大幅に下回ったことから、全体としては近年の中で比較的低い水準となりました。

2. 魚体について（図2, 3）

漁獲物の年齢組成は6年魚（5歳；2009年級）が全体の37%と最も多く、次いで4年魚（3歳；2011年級）の漁獲が多くなりました。2009年級に加えて2006年級や2008年級といった高齢魚も比較的多く漁獲されたことから、今期の漁獲物の平均体重は301gと、昨年度に次ぐ大型の漁獲物組成となり、近年の大型化傾向が続きました。

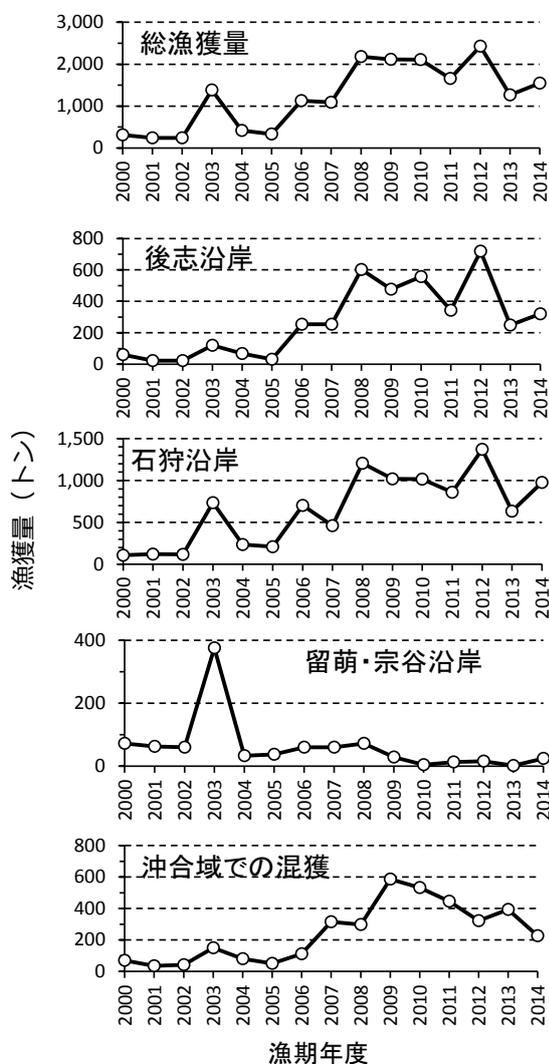


図1 漁獲量の推移

漁期年度：5/1～翌4/30。実質的には10～3月の漁獲量が大半をしめる

3. 漁期について (図4)

今期は1月10日の解禁当初から、6年魚以上の大型魚を中心に漁獲が順調に進み、1月下旬にはこれら大型・高齢群が来遊のピークをむかえ、厚田や小樽沿岸では群来も観察されました。2月に入ると大型・高齢群の来遊が少なく、もともと資源量の少ない5年魚(2010年級)に来遊の中心が移ったことから漁獲量も下がりました。しかし2月中旬には4年魚(2011年級)の来遊が本格化したことで、石狩方面で再び漁獲増となりました。これら4年魚以上の来遊が終わり3年魚以下に主体が移る3月以降の漁獲は今年も低調で、4年連続の不漁となりました。

総括すると、今期は6年魚中心の序盤攻勢という漁期前の予測どおり、1月下旬に盛漁期となり、その後の動向が不安視されたなかで4年魚の来遊が比較的好調で2月にも漁があったことが、漁獲量が昨年度を上回る結果につながりました。

4. 漁海況について (図5)

2014年末から2015年1月にかけてニシン分布域の水温はほぼ例年並みで推移しました。2013年度は12月から1月にかけて湾沖合中層の水温が異常高温となったため1月中旬に湾内に魚が入れないという事態が起きましたが、今期は序盤の漁を形成した大型・高齢群が12月中には湾内浅海に入ったとみられます。解禁当初から湾の西岸域から漁が進み、1月末の産卵まで湾の最奥部(銭函～新港)中心に滞留したと考えられます。その後は厚田方面に移動しシケ明けの1月26日に大規模な産卵が行われた状況とみられます。そのため、序盤は小樽から石狩支所管内、次いで厚田・浜益方面へと漁が続いていきましたが、その一方で湾沖合の深みに滞留す

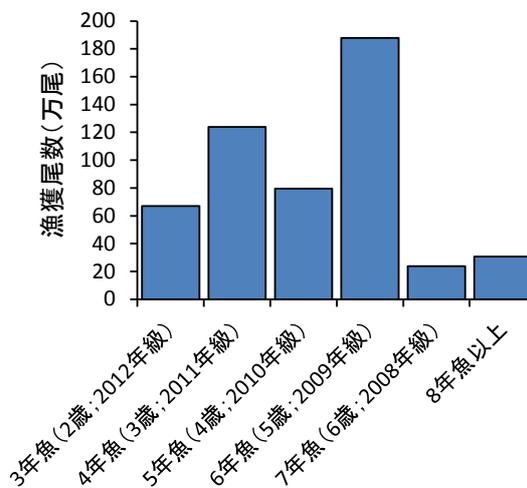


図2 2014年度漁獲物の年齢組

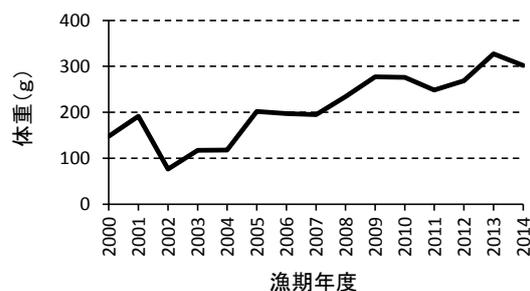


図3 漁獲物の平均体重の推移

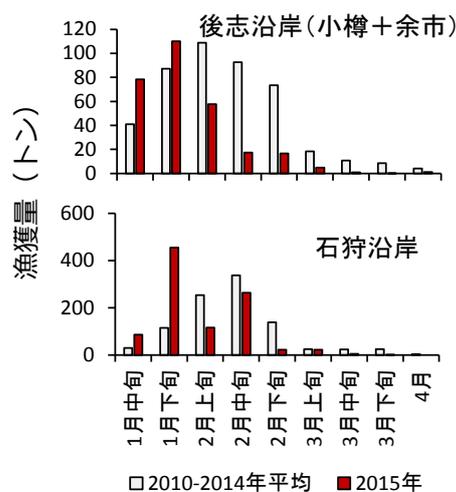


図4 石狩湾沿岸における時期別漁獲量

る魚が少なかったことで、沖刺し網による混獲は昨年度から大幅減となりました。2月以降の沿岸水温は平年より若干高めで推移しましたが、2月中旬に底打ちとなりその後は上昇に転じました。産卵場付近では3月中に6~7度程度で推移していたとみられ、終盤の来遊を妨げるような高水温には至らなかったようです。

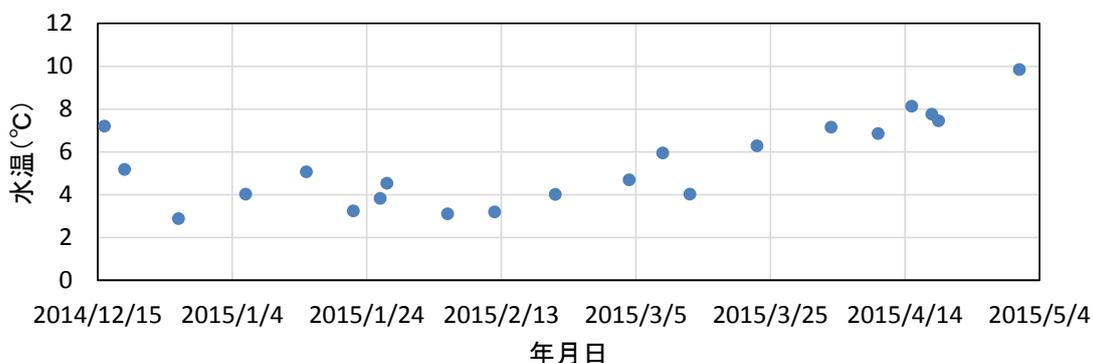


図5 石狩市厚田区古潭前浜における水深3m付近の水温推移 (STDによる観測)

5. 資源状態について

今漁期の漁獲物年齢組成データを加えた最新の資源量計算では、今期の漁期前資源量は、4年魚以上で2012年度比64%、2013年度比39%と推定され、「前2カ年比40-60%」とした漁期前の予測と概ね同程度となりました。2013年度に資源量がありながらも海況異常により漁獲がのびなかったことが幸いし、その獲り残しの2009年級やさらに高齢の大型魚が今期まで生き残ったこと、2011年級が予想より高い豊度で来遊したことが、資源水準の大幅低下を回避し、結果的に昨漁期より漁獲が増加する結果につながりました。

一方、3年魚(2012年級)については、漁期を通して終盤の漁を盛り上げるような寄与はありませんでしたが、その漁獲尾数は昨年度の3年魚に比べ約17倍となりました。また、4月初めに石狩湾漁協青年部が実施した1.6~1.8寸目の試験調査でも2年魚(2013年級)と合わせ大漁となりました。これらのことから、現行2.0寸目以上では魚体が小さいため漁獲対象となりにくかったものの、比較的高い年級豊度があるのではないかと考えられます。今のところ資源計算上は2006、2009年級といった近年の卓越年級と同程度の資源豊度と計算されています。

6. 来期の見通しについて

今期は海況にも恵まれ2009年級やそれより高齢魚に対する漁獲が順調に進んだ結果として、来期にさほど多くの大型・高齢資源が獲り残されたとは考えにくく、今期のような序盤に盛漁期とはなりにくいのではないかと見ています。主体となるのは、2011年級と、豊度が高いと推定されている今期の3年魚すなわち来期4年魚として2月主体に来遊する2012年級と考えられます。しかし、直近の資源計算値には誤差も大きいので、状況が明瞭

となってくるのは、10月に実施する稚内水試調査船「北洋丸」による留萌沖合の索餌海域におけるトロール調査の情報が得られてから、となります。今期も例年どおり実施する予定ですので、その他調査も含めましてのご配慮、情報提供など、引き続きご協力よろしくお願
いいたします。

—ご連絡先—

中央水試 資源管理部 資源管理グループ

研究主幹 星野 昇

Tel. 0135-23-8707